

「粘り強い構造」の概要

東日本大震災における被災事例の分析から、

- 完全に倒壊しなかった防波堤や岸壁については、地震や津波発生時及び発生後において一定の機能を保ち、背後地域の被害軽減や災害後の施設利用の早期再開に寄与

発生頻度の高い津波（L1津波）に対して機能を維持するとともに、それを超える津波に対しても、全壊しにくく、全壊に至る時間を少しでも長く延ばすことが可能となる構造上の工夫（粘り強い構造）が必要

【津波対策方針】

■発生頻度の高い津波（L1津波）:

漁業活動の安定化や効率的な生産・流通拠点の確保の観点から、防波堤、岸壁の整備による対策

■最大クラスの津波（L2津波）:

漁港利用者等の避難を軸としたソフト対策を中心に、土地利用、避難施設、防災施設などを組み合わせた総合的な対策

防波堤

押し波の
越流

捨石の嵩上げ・拡幅
越流に対して、基礎部分が掘られないようにする

押し波
による力

堤体の拡幅
津波の力に対して、堤体が滑らず、また、転倒しないようにする

洗掘の
防止

粘り強い構造のイメージ（防波堤）

岸壁

引き波

捨石の嵩上げ・拡幅
堤体の前面基礎部分が掘られないようにする

背後土砂の軽量化
堤体が前に傾斜しないようにする

軽量化

洗掘の
防止

粘り強い構造のイメージ（岸壁）